「人工知能基本計画骨子」に関する意見募集の結果概要

資料１

１．実施期間

- 令和７年11月21日（金）～令和７年11月27日（木）

２．意見総数

- 603件　（うち、団体・法人等 171件、個人 432件）

３．主な意見

- 「イノベーションの促進とリスク対応の両立」を基本方針とすることを評価。イノベーション推進のためにAI利活用を促進しながら安全・安心にAIを利活用できる環境整備を両軸で進めることが不可欠。
- 「AIを使ってみる行為」が著作権を侵害することのないよう、啓発活動の徹底をすべき。政策形成・運用の各段階において最大限の配慮を求める。
- 高齢化、AI/ITリテラシの決して高くない地方においては、まずは自治体のAI/ITリテラシを向上し、自治体職員から住民にAI/ITリテラシを普及させていく取り組みが必要と思う。
- 日本のAISIが国際的なネットワークを活用し、AIガバナンスをめぐる議論を主導すべきであることに賛同。指針骨子にも掲げられた諸価値の重要性や、官民の協働を基調とした日本のガバナンスモデルについて、国際的な議論の場において積極的に発信することが重要。

※いただいたご意見については、事務局において編集し掲載しているものもあります。

いただいたご意見については、本計画の策定や今後の政策の検討に当たって参考とさせていただきます。

「人工知能基本計画骨子」に寄せられた主な意見

「人工知能基本計画骨子」に寄せられた意見総数　603件（うち、団体・法人等からは171件、個人からは432件）

● 全般に対する意見（94件（うち、団体・法人等からは28件、個人からは66件））のうち代表的な意見

番号	該当箇所	ページ	開始行数	終了行数	意見内容	回答
1	全般	-	-	-	現在、様々な生成AIによるディープフェイク報道、詐欺、児童ポルノ所持による国外逮捕などの事件が起きており、何の対策もなされないまま、内容は”使用前提”となっている。現行法により対応可能と繰り返し主張していたが、実際に法効力は限定的であり、無断で収集されたデータに関して各業界から批判の声明文が出ているにもかかわらず、この内容である。規制も設けず、政府は無計画・無責任と言わざるを得ない。また、重要な案件であるが意見募集期間はわずか一週間のみ。周知され答えるには短すぎる、国民の意見を聞く気があるのか、甚だ遺憾である。	ご意見として承ります。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。 なお、パブリックコメントの期間について、本計画を年内目途に策定する方針となっている中で設定したため、ご理解いただければと存じます。
2	全般	1	1	1	人工知能基本計画骨子及び適正性確保に関する指針骨子について「イノベーションの促進とリスク対応の両立」を基本方針とする方針を評価いたします。特に生成AIの急速な進展を考慮するにあたり、本計画が「世界で最もAIを開発・活用しやすい国」を目指すという目標を真に達成するためには、リスクベースでのアプローチに基づき過度な規制強化を避けつつ、イノベーション推進のためにAI利活用を促進しながら安心・安全にAIを利活用できる環境整備を両軸で進めることが不可欠と考えております。	御賛同いただき、ありがとうございます。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。
3	全般	2-3	-	-	「世界で最もAIを開発・活用しやすい国」を目指す方向性に賛同します。実装支援、技術開発、ガバナンス推進、国際ルール形成など、多面的な施策が日本の競争力に寄与すると考えます。今後策定される基本計画では、短期的なKPIではなく、短期マイルストーンと中長期目標を組み合わせた段階的な目標設定を行うことが重要と考えます。これにより、AI関連施策の進捗を柔軟に評価し、事業者が予見性を持って取り組みやすくなると考えます。また、産官学が共通認識のもとで連携し、中長期的な取組を加速するためには、各主体との情報交換を通じて各主体の具体的な役割（責任主体、行動、貢献内容）を明確に定義していくことが重要と考えます。	御賛同いただき、ありがとうございます。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。

4	全般	-	-	-	新聞協会はAI事業者に対し、報道コンテンツを生成AIに利用する場合は許諾を得るよう繰り返し求めている。しかし改善がみられないままサービスは拡大の一途をたどり、ユーザーが情報発信源のウェブサイトを訪問しない「ゼロクリックサーチ」などの問題は深刻化している。このままでは、コンテンツから得た収入をさらなる報道活動に投下する再生産サイクルが損なわれ、報道機関の機能が低下し、国民の「知る権利」を阻害する結果となりかねない。民主主義の在り方などにも関わる極めて重要な問題であり、生成AI時代に即した新たな法整備が急務だ。 本件はこうした状況のもとで政府の基本計画を策定するための重要な意見募集であるにもかかわらず、１週間に満たない極めて短期間で実施した。国民の意見を尊重する考えがあるのか疑わざるを得ないものであり、極めて遺憾だ。	ご意見として承ります。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。 なお、パブリックコメントの期間について、本計画を年内目途に策定する方針となっている中で設定したため、ご理解いただければと存じます。
5	全般	-	-	-	生成AIに限らず、AIが既存データを利用するなら学習元データの質はその優劣を決める重要な要素となる。自身の成果が否応なく利用され、“AIのおかげ”にされる状況では誰も成果を共有せず、社会全体の知識の蓄積が滞るばかりか将来のAIの学習資源確保の観点からも望ましくない。骨子の「まず使ってみる」よりも先に個人の成果・情報が望まない形で使用されない仕組みの構築をすべき。データ作成者の権利を認め、制作と利益還元の良いサイクルが生まれれば、将来のデータの量・質の向上が期待できる。一方で国防や医療の分野や事故防止のための認識技術の開発などの喫緊の課題で、データ作成者を含めた公共の利益となり、かつ、制作サイクルへの影響が極小の場合は、広くデータ利用を認める意義はあると思われる。真に「世界で最もＡＩを開発・活用しやすい国」を目指すのならば、誰もが成果を公表したことで損をしたと感じない仕組みを作る必要がある。	ご意見として承ります。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。

● 第１章に対する意見（149件（うち、団体・法人等からは22件、個人からは127件））のうち代表的な意見

番号	該当箇所	ページ	開始行数	終了行数	意見内容	回答
1	-	2	1	1	「世界で最もＡＩを開発・活用しやすい国」が、「世界で最も著作権を軽視する国」とならないよう、政策形成・運用の各段階において最大限の配慮を求めます。また、我が国の基幹産業と指定されるコンテンツ産業の権利者、ステイクホルダーへの情報提供と対話を欠かさぬようお願い申し上げます。	ご意見として承ります。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。
2	-	2	27	27	日本は大規模モデルを開発する環境と人材があるものとは考えられず、専門性の高さ且つどこの国よりもデータからクリーンなモデルを作る日本らしいと思わせるモデルケースを作り続ける事が反転攻勢の好機ではないかと考える。	ご意見として承ります。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。 なお、第１章「『世界で最もＡＩを開発・活用しやすい国』に向けて」において御指摘の「クリーン」という観点に通じる「『信頼できるＡＩ』を追及」する旨記載するなど、全般的に「信頼」を志向する旨記載しております。
3	-	2	27	27	「AIを使ってみる行為」が著作権を侵害することのないよう、啓発活動の徹底をお願いいたします。「使ってみる」を推奨する前に、AIに関する国民的議論を深め、そして敬意ある契約に基づく信頼を構築することが必要だと考えます。著作権・肖像権・財産権のみならず、倫理面からもAIの利活用の是非を多角的な視点を持って議論し、その過程と結論を広く公表することによって、国民の理解と意識を高めることが不可欠ではないでしょうか。さらに、法律だけではカバーしきれない領域については、互いに敬意を払った契約により補完していく必要があると考えます。	ご意見として承ります。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。
4	-	2-3	-	-	多くの海外勢がAI領域における生き残りをかけ、官民挙げて大規模投資に取り組むという姿勢を示しているところ。日本としてもより一層踏み込んだ投資を進める必要がある。海外勢を念頭に「キャッチアップ」という記載があるが、AIそのもののイノベーションを日本が牽引し、AI領域においてグローバルな議論をリードすることを目指す視点も重要。 AI分野の基礎研究から実装、更にその先のサービスへの適用・利活用に至る各段階を念頭に、政府自身による取り組み強化に加え、対応を進める民間への支援強化を要望する。	ご意見も踏まえ、第３章第２節（３）②において「リーダーシップ」を持って国際ネットワークを構築していく旨、記載させていただきます。
5	-	3	1	6	AI技術のうち、特に生成AIについて、人工知能基本計画骨子資料にあるように、誤情報やサイバー攻撃などの加害性リスクや知的財産を著作者の許諾なく搾取し、事業として利用する圧倒的な被害構造が明らかになっており、生成AIがもたらす利益に対してリスクが莫大すぎる面があり、大変不安を覚えています。また世界中で生成AIを元凶とするディープフェイク被害や著作物の無断利用問題を取り扱った裁判も複数あり、手放しに推進してはならないものと感じています。日本が世界に誇るAI技術を確立したいのであれば、既存の生成AI技術に乗っかることなく、学習データすべてに許諾をとった透明性のあるデータを用意し、出力物に対しAI製であることを明記した上で、生成AIによる被害が起きた際に加害者にしかるべき罰則がなされる社会であることが大前提なのではないでしょうか。どうか賢明な対応をお願いいたします。	ご意見として承ります。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。

6	-	5	7	7	「まず使ってみる」とあるが現在SNSを中心にAIで作成されたディープフェイクによる混乱が生じており、それに対して抑止力となる法律も規則もない中で悪意あるなしで使えている現在、起きている問題も解決できていないのに推進することに強い恐怖を覚えます。 そういったトラブルを抑止するためにライセンス制にするなどまずはリテラシーのある方々で自治ができる環境を構築してから普及するべきではないでしょうか。	ご意見として承ります。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。

● 第２章に対する意見（45件（うち、団体・法人等からは6件、個人からは39件））のうち代表的な意見

番号	該当箇所	ページ	開始行数	終了行数	意見内容	回答
1	-	4	3	4	人とＡＩが協働するAIとの共生社会の実現のために、人間中心のＡＩ社会原則と共に、AIの福祉と権利の問題についても検討すべきと思われます。	ご意見として承ります。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。 なお、第３章第４節において「ＡＩ社会から取り残される者を生まない」旨記載しております。
2	-	5	12	13	「AI社会を生き抜く『人間力』を向上」とあるが、あまりに漠然とした文面のため不安に思った。もう少し具体性のある説明がなければ納得することも批判することもできない。 なお、字面だけ見ると政府が国民に精神論を向けているようで、太平洋戦争時のプロパガンダのようだなと感じた。	ご意見を踏まえ、第３章第４節において「人間力」に係る記載を丁寧にさせていただきます。

● 第３章に対する意見（296件（うち、団体・法人等からは113件、個人からは183件））のうち代表的な意見

番号	該当箇所	ページ	開始行数	終了行数	意見内容	回答
1	第１節	6,10	-	-	防衛分野のAI活用について、範囲や安全性基準が不明確です。人間の最終判断権や暴走防止策など、国際基準と整合した具体的なガバナンス方針の明示を求めます。	ご意見として承ります。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。
2	第１節	6	15	16	高齢化、AI/ITリテラシの決して高くない地方においては、まずは自治体のAI/ITリテラシを向上し、自治体職員から住民にAI/ITリテラシを普及させていく取り組みが必要と思う。「～自治体が 積極的にＡＩを導入できる環境を整備」とあるが、自治体もそもそもAI/ITリテラシが高くなく、面倒でもあり、積極的に導入、普及しようとする意識は高くないと想定。AI/ITリテラシが高くないため、何をどう進めたらよいのかわからない。強いては、AI/IT活用は課題解決の手段ですが、課題設定をせずに、AI/IT導入自体が目的になると想定される。	ご意見も踏まえ、第３章第１節の御指摘の箇所に、自治体におけるベストプラクティスを脚注として追記いたします。
3	第１節	11	-	-	本計画では人材育成にも触れられていますが、「AIがあることを前提に読み書き・調査・創作を行う社会」への移行を、教育基本計画と連動して位置付けるべきです。初等中等教育では、AIを使ったらカンニングという発想にとどまらず、「AIに何を聞くか」「結果をどう検証するか」「AIが苦手な部分を人間がどう補うか」を学ぶカリキュラムが必要です。これにより、AIを巡る恐怖や分断ではなく、「うまく付き合うスキル」を国として底上げする方向性を明示してほしいと考えます。	ご意見として承ります。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。 なお、第３章第４節において「ＡＩ時代における教育の推進」について言及しております。
4	第２節	7	-	-	本計画では、「日本国内におけるＡＩ開発力の強化」「日本独自にＡＩエコシステムを構築」といった表現が多数見られ、自国で開発・運用することの意義は理解できます。一方で、過度に「国産」にこだわりすぎると、ガラパゴス化や国際標準との乖離を招きかねません。 特に学習データや評価指標については、日本語・日本文化に根ざしつつも、他国の研究機関や国際的な標準化プロジェクトと協働し、「閉じた国産モデル」ではなく、オープンで相互運用可能な標準データ・枠組みづくりに積極的に参画する旨を、基本計画のレベルで明記していただきたいです。	ご意見を踏まえ、第３章第２節の各所に「海外展開」、「他国と連携」といった文字を追記いたします。 なお、第３章第３節においては「相互運用性」について言及しております。
5	第２節	7	17	19	地域におけるAI研究開発支援拠点の必要性についても、AI基本計画に記載していただきたい。	ご意見を踏まえ、第３章第１節の脚注として、地域における各種取組について追記いたします。
6	第２節	7-8	-	-	具体的な取り組み例として、日本国内のAI開発力の強化や信頼できるAI基盤モデルの開発が挙げられている。詳細は不明だが、政府自らがデータセットやデータ連携基盤の構築、日本語データの整備・拡充に取り組むとすれば、データの権利者に許諾を得て適切な対価を支払う枠組みが不可欠だ。すでに報道コンテンツの無断学習・利用が課題になっている中、政府自らが権利者を重視する姿勢を示すことが、基本計画で掲げる「AIエコシステム」を構築するために最も重要だ。AIの政府調達にあたっても、適切な権利処理を行っている開発業者の製品かどうかを判断基準に盛り込むべきだ。	ご意見として承ります。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。 なお、第３章第１節において「政府によるＡＩの適正な調達・利活用」について言及しており、この記載については御意見も踏まえ、より丁寧な記載をいたします。

7	第３節	9	18	21	AIガバナンスに関して記載されている内容に賛同する。その上で、事業者が各種の取組を自主的に行えるよう、国や関連団体等への積極的な支援が実施されることが望ましいと考える。たとえば、各企業が透明性レポートの開示に積極的に取り組めるよう、その重要性を周知し公開を促す支援等が想定される。	御賛同いただき、ありがとうございます。別途策定を進めております指針等も含めた今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。
8	第３節	9	22	24	AI Safety Institute（AISI）および、より広範に日本のAI評価基盤を継続的に強化していくことの重要性に賛同します。基本計画においては、AISIが包括的な評価手法や、産業界・市民社会との連携による標準化された安全性のプラクティスを策定することの重要性を強調することも考えられます。 また、AISIを通じて、日本が世界のAISIネットワークにおける主要な拠点となり、グローバルで相互補完的な安全性に関する期待や優先事項の推進に貢献できると考えています。	御賛同いただき、ありがとうございます。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。
9	第３節	10	-	-	日本のAISIが国際的なネットワークを活用し、AIガバナンスをめぐる議論を主導すべきであることに賛同する。各国における政策的な立場にも日々変動が見られることを念頭に、「人工知能関連技術の研究開発及び活用の適正性確保に関する指針骨子」の方にも掲げられた諸価値の重要性や、官民の協働を基調とした日本のガバナンスモデルについて、国際的な議論の場において積極的に発信することが重要であると考える。	御賛同いただき、ありがとうございます。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。
10	第４節	10	21	22	AI 社会から取り残される者を生まないよう、AI 社会を生き抜くための「人間力」向上を図る方針に賛同いたします。あわせて、AI 社会から取り残される可能性が高い層への配慮（仕組み等）についても、検討いただけますと幸いです。	御賛同いただき、ありがとうございます。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。

● 第４章に対する意見（19件（うち、団体・法人等からは2件、個人からは17件））のうち代表的な意見

番号	該当箇所	ページ	開始行数	終了行数	意見内容	回答
1	第２節	12	13	14	推進体制に「文化・クリエイティブ産業」の専門家を加えることを求めます。城内実AI戦略担当大臣は、国会で「クリエイターの不安に向き合う姿勢」を示されていました。実際に、生成AIは文化芸術分野における人格権・著作権・実演権に深刻な影響を与えています。 推進会議・有識者会議に、コンテンツホルダー、実演家団体、クリエイター団体、そして生成AIのクリエイティブ分野での活用に対して懐疑的な有識者を加える公平な仕組みを、計画に明記することを求めます。	ご意見として承ります。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。 なお、第４章第２節において「産学官で積極的に連携」する旨、記載しております。
2	第２節	12	10	10	計画の見直しについて、ある程度でも良いので具体的な時期を明示して欲しい。 また期限については、社会全体を巻き込んでの内容である事を鑑み、今回のような1週間ではなく通常のパブリック・コメント同様1ヶ月程度である事を望む。 現在の形では、広く意見を集めるという趣旨に反してしまう。 また専門調査会で聴取する有識者については、生成AIが市場の競合を起こしている全ての分野の業界団体、並びに権利侵害を受けている業界の複数団体からも意見を取り上げるべきである。	ご意見として承ります。今後の政府における政策検討の際の参考とさせていただきます。 なお、第４章第２節において「当面は毎年変更を行う」旨、記載しております。 パブリックコメントの期間については、本計画を年内目途に策定する方針となっている中で設定したため、ご理解いただければと存じます。